

令和 8 年 9 月 1 日

九州医学技術専門学校

校長 小丸 検造 殿

学校関係者評価委員会

委員長 金原 俊輔

学校関係者評価委員会報告

令和 7 年度の学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

委員名	所属先	役職名	備考
金原 俊輔	長崎メンタルヘルス株式会社	代表取締役社長	
伴 美穂子	日本赤十字社 長崎原爆病院	技師長	企業
松野 大輔	長崎セントノーヴァ病院	事務次長	同窓生
梶原 恵	神村学園高等部 大村学習センター こころ未来高等学校	センター長 校長	
奥村 亮子	公益社団法人 長崎ミュージアム振興財団		
前田 陽二	葉山町自治会		元私立高校教諭

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 令和 8 年 8 月 7 日（金）18：00～

会場：九州医学技術専門学校 医療秘書科教室

3. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

令和7年度九州医学技術専門学校 学校関係者評価報告

令和7年度の自己評価について各担当者から説明を行った後、自己評価をもとに、学生の状況や学校運営上の課題等について活発な意見交換を行った。

1. 評価基準

評価は4段階で実施した。

評価	達成状況	目安
4	十分に達成している	目標に対する具体的方策が進行し、当初の成果が得られている、または成果を検証しつつある状態
3	おおむね達成している	改善に向けた共通理解のもと、具体的方策の実行に着手している状態
2	どちらかという達成されていない	改善の方向性はあるものの、共通理解や取組が十分でなく、全体として停滞が見られる状態
1	ほとんど達成されていない	問題意識はあるが取組に至っていない、または問題意識が十分に共有されていない状態

2. 学校からの報告

(1) 臨床検査科

令和8年度入学生からカリキュラムの時間数を見直し、国が定める基準を満たしながら、学生の負担軽減と学内での予習・復習時間の確保を図った。移行に当たっては、学生・講師双方に不利益が生じないように、段階的に授業コマ数を調整する。

最大の目標である「臨床検査技師国家試験合格と全員就職」に向け、1年次から各種対策を実施している。第72回臨床検査技師国家試験は39名が受験し、34名が合格（合格率87.2%）した。令和7年度卒業生は、校外模試で継続して全国平均を上回った一方、模試の成績と国家試験の結果に相関が見られた。令和8年度から試験センターを設置し、国家試験対策に加え、1年次からの基礎力向上を進める。

また、令和7年度から1・2年生に心電図検定を受験させており、国家試験対策にもつながる取組として今後も継続する。

就職・進学については、国家試験合格者34名のうち31名が臨床検査技師として就職または進学した。内訳は、進学1名（3.2%）、県内就職22名（71.0%）、九州内就職4名（12.9%）、九州外就職4名（12.9%）であった。

専任・非常勤教員を対象とした授業評価アンケートを令和6年度に引き続き実施し、学生の評価をもとに授業改善を進める。

(2) 医療秘書科

最大の目標である「全員就職」に向け、各種検定試験の合格を目指して指導に取り組んでいる。卒業生講話を実施したほか、令和7年度からは1月以降に早期就職（インターンシップ）を開始した学生にも月1回の登校日を設け、情報共有と継続的な支援を行った。

「診療報酬請求事務能力認定試験」は、令和6年度の2名に続き、令和7年度は5名が合格した。同試験が令和7年度で終了するため、令和8年度からは登録販売者試験への挑戦を新たな目標とする。

就職については全員が就職した。卒業後も、必要に応じて可能な範囲で相談・支援を継続する。

(3) 広報・学生募集

学校説明会・体験学習の内容改善、入学試験の模擬面接、特別奨学生試験対策講座などを実施し、複数回来校につながる工夫を行った。

情報発信では、ホームページをリニューアルし、Instagram や TikTok などの SNS 投稿を工夫した。Instagram のフォロワー数は、令和7年度末の目標650人に対し700人となり、目標を上回った。

これらの取組により、令和8年度の臨床検査科入学者は前年度より8名増加した。内訳として、指定校推薦による入学者は9名、既卒者・社会人は7名であった。一方、医療秘書科は入学者増に至らず、広報活動のさらなる工夫とカリキュラム等の見直しを進めている。

(4) 施設・設備

令和7年度に1階女子トイレの改修工事を行い、令和7年度からの検討を経て、令和8年度には全館の照明をLEDへ切り替えた。建物の老朽化に伴い校内の複数箇所でも雨漏りが発生しているが、国際情勢の影響による修理部品の調達遅延も生じている。引き続き、順次修理を進める。

(5) その他

学校関係者評価委員会設置要綱を改定した。また、自己点検評価には区分が明確でない項目があるため、令和8年度の自己点検評価から評価項目を見直す。

3. 委員からの主な意見・要望

以下は、評価に対して意見・要望があった事項を要約して記載する。

(1) 学校教育基本方針・学校教育目標・重点努力目標

- ・定員に対して退学者が多い。令和7年度に特有の状況なのか、指導体制等に課題があるのかを検討・精査する必要があるのではないか。（臨床検査科）
- ・各種検定試験の合格率が高い水準にあることを踏まえると、評価Bは厳しいのではないかと。（医療秘書科）

(2) 社会人基礎力

- ・引き続き、周囲に働きかける力を育成してほしい。（臨床検査科）
- ・新しい価値を生み出す能力を育成するため、目標と計画を明確にしてほしい。（医療秘書科）
- ・社会人基礎力は重要であるため、評価 B・C が多い項目については、適切な対策が必要である。
（医療秘書科）
- ・「考え抜く力」のうち、新しい価値を生み出す能力の育成に関する具体的取組として、友人関係を広げるための指導を掲げているが、評価が C となった理由は何か。（医療秘書科）

【学校からの回答】学生間の関係構築に課題が見られ、取組が十分な成果につながらなかったため、評価を C とした。

(3) その他

臨床検査科

- ・国家試験合格者が前年度より 5 名増加した。合格率 100%の安定的な達成に向け、「試験センター」の取組に期待する。
- ・学生募集に関して、分かりやすいホームページへリニューアルされた。今後の募集増加につながることを期待する。

医療秘書科

- ・各種検定試験の合格率および就職内定率がともに 100%を達成したことを評価する。
- ・「診療報酬請求事務能力認定試験」で 5 名の合格者を輩出したことを評価する。
- ・学校自己評価は、自校の特色を確認・再認識するとともに、問題点を把握することに意義がある。評価のための評価にとどまらず、特色をさらに伸ばし、改善すべき点には速やかに対策を講じることが、学校の健全かつ安定した発展につながる。今後のさらなる取組を期待する。
- ・自己評価書の中で「学生」と「生徒」が混在しているため、表記を統一することが望ましい。
- ・「2. 生活指導」等の項目に「学生サポーター」を記載し、その役割を明確にしてはどうか。